

第5回新宿区文化芸術振興会議（第8期） 議事要旨

■日 時 令和8年3月25日（金）午後2時～午後4時

■会 場 漱石山房記念館 地下1階講座室

■出席者 委 員：垣内恵美子 星山晋也 芥大輔 藤岡紗絵 松井千輝 工藤真実 西脇芳和
大和滋 新井一輝

事務局：村上文化観光産業部長、神崎文化観光課長 宮川文化観光係長 雨宮主任

＊敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順

■要旨

1 開会

2 議事

(1) 「新宿フィールドミュージアム協議会の活性化」について

事務局から資料1及び参考資料1～3、西脇専門部会長から資料2を説明し、「新宿フィールドミュージアム協議会の活性化」について各委員が審議を行った。主な発言内容は次のとおり。

- ・協議会が活性化しないと新宿フィールドミュージアムの事業内容も活性化していかないと思う。
- ・新宿フィールドミュージアムのミュージアムのガイドブックや報告書について、多くの人の目に留まるような工夫が必要だと考える。
- ・ホームページにもガイドブックの掲載はあるが、多くの方の目にとまるためには、新宿フィールドミュージアムの認知度が課題かと思う。
- ・協議会の参加団体は150団体ということだが、協議会全体会の参加率が少ないのではないかと考える。協議会の活性化ということを目的にするのであれば、協議会全体会の参加について、促していく取り組みが必要なのではないか。
- ・協議会に参加していない団体に、「なぜ参加ができないのか」というアンケートを取ることも良いと考える。それにより、新たに課題をみつけていくことも良いと感じる。
- ・協議会全体会の開催方法については現在対面のみとのことであるが、オンラインでの参加なども検討していくことも良いのではないか。
- ・新宿フィールドミュージアム協議会の組織体の整理も必要になっていくと思う。
- ・協議会全体会の第3回目のフィールドツアーの取り組みは新しい取り組みであり、参加者の希望にも沿っており、良い取り組みであったと思う。ただし、参加団体が少なかったことは残念に思う。
- ・参加団体の皆さんはこの協議会全体会に、時間を使って参加をしているわけであるので、成果物を持って帰りたいと思っている。その上で、第3回目のように班ごとのミーティングや報告会ができたことは、良かったと考える。
- ・参加しなかった団体も、「この内容であれば次から参加したい」と思えるような会を作っていくことが大事だと思うので、より団体間の横のつながりが増えていくと良いと考える。
- ・新宿フィールドミュージアムの認知度を上げるためには、まず、新宿フィールドミュージアムを知ることが大切だと思うので、通年でアイコンやバナーを活用し、多くの人の目に留まるような取り組みをしていくことが良いと考える。
- ・参加団体のHPのバナーや名刺に新宿フィールドミュージアムのアイコンを使用していただくよう推奨していく取り組みも良いのではないか。
- ・毎年、全体会や運営部会は開催しており連携ができていている事例もあることから、それらが継続できているのかや、成功体験の共有ができていているのか、など気になるところである。

- ・新宿フィールドミュージアム協議会への参加回数のアンケートを見ると、参加団体の半数以上が9回目以上ということであり、毎年恒例の内容になると、中々参加率も上がらないものなのかなとは思ふ。その中で、フィールドツアーなど、新しい取組みがあると、しばらく全体会に参加していなかった方も、出てみようかな、と思うことがあるので、とても良い取組みだと思った。
- ・区広報誌など、多くの区民が目にする媒体を活用し、新宿フィールドミュージアムの広報を推進していくと良いと考える。
- ・協議会の参加団体を見るが、外国人居住者が多い新宿区であるはずが、外国の参加団体がそれほど多くないように見受けられる。協議会に外国の方も積極的に参加いただくことで、より協議会が活性化していくのではないかな。
- ・新宿フィールドミュージアムという事業で、それぞれの外国の方が、自国の文化のアイデンティティや民族のアイデンティティを披露することで、日本人が他国のことを知る良い機会にもなり、また、参加団体の皆さんが自分の子どもたちにもそれを教えることができ、良い機会になると思う。
- ・新宿区には海外の大使館もあるので、参加していただければ、新しい発想なども得られ、良いのではないかな。
- ・クリアソン新宿のように、新宿区をホームタウンとするサッカーチームなどに参加してもらえれば、新宿区在住の日本人をはじめ、新宿区在住の外国の方も親近感を持って、一緒に新宿フィールドミュージアムを盛り上げていこうという気持ちになるのではないかな。
- ・協議会の参加団体は、それぞれ色々な活動をしており、それぞれが利害関係が違う中で、これを一つの協議会でまとめるということは、中々難しいものがあると思う。よって、協議会の活性化の実態を捉えることは難しいが、「情報発信」というものは不可欠であると思う。
- ・参加団体情報のデータベース化により、どの団体が、いつ、どこで、何をやるのか、ということを実タイムで知りたい人が知れる、ということが、協議会活性化の近道ではないかな。
- ・過ぎた過去のデータもアーカイブ化して残していくことで、データ自体にも価値が出てくれば、協議会自体の価値もあるものになると思う。
- ・会費を取り、協議会を法人化する手法もあると思う。
- ・運営部会を3回開催していくが、これを協議会の活性化に結び付けていくことを考えていく必要がある。
- ・新宿フィールドミュージアムの認知度が低いという議論もあったが、新宿フィールドミュージアムというもののブランドや、組織について今一度見つめ直す必要があると思う。
- ・新宿フィールドミュージアム協議会への加入する目的として、9月頃に発行するガイドブックへ団体の秋のイベントを掲載してもらうために加入している、という団体が多くいる現状だと思われる。新宿の文化と一緒に高めていこう、という共通目的は低いのではないかな。よって、共通目的と貢献意欲、参加者同士の交流のような要素が大切だと思う。
- ・一定程度の固定の会員がいることから、メリットは各団体は感じているはずである。ただし、区民アンケートを参照すると、区民の方にはこの事業の良さが伝わっていないのではないかなと思う。
- ・新宿フィールドミュージアムが区民の方にはどのようなメリットをもたらすのか、どのようなサービスを提供できるのか、そして、コアイベントへ参加することのインセンティブが大切だと思う。
- ・コアイベントを複数ジャンルで行うことで、区民のニーズをくみ取った多様な事業展開により活発な情報発信を行うことができれば、この事業は良い方向へ展開していくと思う。
- ・新宿フィールドミュージアムへのインセンティブの向上と情報発信の仕方により、協議会参加団体のメリット及びそれを享受する区民の方へのメリット、そしてブランド力を高めていくことにつながると思う。
- ・そのためには「参加団体同士の連携」「協議会のあり方の検討」も考慮していく必要がある。
- ・「協議会のあり方の検討」については、組織体の見直しなど事務的な部分のため、事務局に一任し

ていくことがよいかと思うが、今まで携わってきた団体の方や、特に運営部会に参加されている方々のモチベーションを切らせないように検討いただきたいと考える。

- ・コアイベントや、協議会参加団体のイベントなどで、積極的に「ぜひ写真を SNS に投稿してください。」「ハッシュタグ新宿フィールドミュージアムを付けて、発信してください。」など、各イベントで呼びかけていく取組みもよいと思う。
- ・今後は紙媒体は縮小されていく傾向にあると思っはいるが、子どもには紙媒体の方が目に入りやすいため、紙媒体の存在は大事だと思う。

(2) 「情報発信力の強化」について

事務局が資料 3 及び参考資料 4 により説明し、「情報発信力の強化」について各委員が審議を行った。主な発言内容は次のとおり。

- ・情報発信力の強化として、Web サイトと SNS とガイドブックという 3 点が上げられているが、SNS はアカウントをフォローしていないとなかなか情報が届きづらいという面がある。また、紙媒体のガイドブックは、実際に配架してある場所に行かないと手に取ることができないので、情報発信ツールとして多くの方の目に入るのは、Web サイトではないかと思う。
- ・新宿観光振興協会で AI を活用し、情報発信を行っているとのことであるが、区民が多く目にするのは区公式ホームページかと思うので、区公式ホームページに新宿フィールドミュージアムホームページへリンクするバナーなどを配置すると良いのではないか。
- ・関連するホームページを整理統合していくことは良い取り組みだと思う。いくつか文化関連のホームページを参照したが、新宿フィールドミュージアムとリンクされているものが少なく、まとまり感がないと感じた。
- ・AI での集約や整理統合により、情報過多となることには懸念がある。新宿フィールドミュージアムのホームページを参照すると、文字情報が多いため、最低限の情報をキャッチーに見せる方法も大切だと思う。
- ・新宿観光振興協会のホームページの良いところは、当日客やタイムリーに現地にいる人が、検索し、イベントなどに参加することができるというメリットがあるが、文化芸術というものは「行きたいものを探して、その場所に行く」というものであるので、情報が先行している必要がある。当日客が少ないものであり、事前申し込みや予約が必要なものも多くある。そのように考えると、情報の仕分けについて『観光』と『文化芸術』で少し違うのではないかと思われるため、慎重に検討していく必要がある。
- ・様々な方が様々な形で情報を欲しているため、イベントによりターゲットや参加想定人数なども変わるものと思われるため、AI の活用やホームページの整理統合は、きめ細やかな検討を行っていく必要があると認識する。

(3) その他

- ・次回の第 6 回新宿区振興会議は 7 月頃を予定している旨事務連絡を行う。

閉 会